

## 通信の安心を支える現場 特別編

### 東日本大震災の経験に学ぶ ドコモの新たな 安心安全への取り組み

情報を伝え、人と人をつなぎ、生活を営むための現場に学び、奮闘を支える。今やライフラインのひとつに数えられる通信ネットワークは、被災地の人々にとって支えとなる存在。ドコモは、被災地の人々を支援するために、通信ネットワークの回復を最優先課題として、被災地の状況に合わせた対応を続けています。また、震災発生から約1ヶ月、ひとときも休むことなく続けられている。たとえ何が起きても、つなぐこと、つなぐこと、つなぐこと。被災地の人々を支援するために、ドコモは、被災地の状況に合わせた対応を続けています。また、震災発生から約1ヶ月、ひとときも休むことなく続けられている。たとえ何が起きても、つなぐこと、つなぐこと、つなぐこと。

#### つながり続けるために ネットワークコントロール

通信ネットワークは、被災地の人々を支援するために、被災地の状況に合わせた対応を続けています。また、震災発生から約1ヶ月、ひとときも休むことなく続けられている。たとえ何が起きても、つなぐこと、つなぐこと、つなぐこと。

#### つなげるために 復旧への使命感

被災地の状況に合わせた対応を続けています。また、震災発生から約1ヶ月、ひとときも休むことなく続けられている。たとえ何が起きても、つなぐこと、つなぐこと、つなぐこと。

#### 誰かが使えないと サービスの利便性向上

サービスの利便性向上を推進しています。また、震災発生から約1ヶ月、ひとときも休むことなく続けられている。たとえ何が起きても、つなぐこと、つなぐこと、つなぐこと。

#### 強く柔軟なネットワークへ

強く柔軟なネットワークを構築しています。また、震災発生から約1ヶ月、ひとときも休むことなく続けられている。たとえ何が起きても、つなぐこと、つなぐこと、つなぐこと。

#### ドコモが取り組む新たな災害対策

重要エリアの確保	
【通常時】 ひとつの基地局で広範囲をカバーする大ゾーン基地局の構築	【災害時】 人口密集地などの通信を確保するために、災害時にひとつで広いエリアをカバーできる新たな基地局を全国に約100ヶ所設置する
基地局の停電対策	
停電時に都道府県庁、市区町村役場などの通信を確保するため、全国約1,900の基地局無停電化・バッテリーの24時間化を実施する。	
被災エリアへの迅速な対応	
衛星携帯電話の充実	避難所などにおける通信を速やかに確保するため、衛星携帯電話を即時提供できる体制を整える。(約3,000台)
衛星エントランス回線の充実	被災エリアを早期復旧するために、衛星回線に接続できる衛星移動基地局の配備を全国19台に増強、また新たに24台の可搬型設備を導入する。
非常用マイクロエントランス設備の充実	被災エリアを早期復旧するために、マイクロ(無線)設備を利用した非常用無線回線設備を全国に100区間配備する。
利便性向上	
災害により電話が繋がりにくい時に音声メッセージをかけるサービスの開発	災害時に電話が繋がりにくくなった場合、(パケット)通信方式で音声メッセージをお届けする新しいサービスを開発する。 無事です。避難所にいます。無事です。避難所にいます。
復旧エリアマップの改善	中断したエリアの復旧状況や各種支援サービスの提供場所などを地図上でわかりやすく表示。今回の災害で初めて開設。今後も拡充を図る。
災害用伝言板の音声ガイダンス対応	「緊急登録・確認」が容易にできるよう、音声ガイドによる災害用伝言板アプリを開発する。
エリアメールのさらなる活用	緊急地震速報や災害・避難情報などを提供する緊急速報「エリアメール」のさらなる活用を図る。
SNS等との連携によるICT活用のさらなる推進	ホームページに加えSNSと連携した迅速で詳細な情報発信の活用を図る。



東京・品川にあるドコモのネットワークオペレーションセンター。大型スクリーンには、東日本の基地局の状況がリアルタイムに表示される



福島第一原発周辺のエリア復旧は、放射線防護服に身を包んだ作業となった

#### お客様の安心安全のために「責任」が築く信頼

今回の震災を受けて、ひとつの被災地を支援するだけでなく、被災地の人々を支援するために、ドコモは、被災地の状況に合わせた対応を続けています。また、震災発生から約1ヶ月、ひとときも休むことなく続けられている。たとえ何が起きても、つなぐこと、つなぐこと、つなぐこと。

#### 復旧への使命感

被災地の状況に合わせた対応を続けています。また、震災発生から約1ヶ月、ひとときも休むことなく続けられている。たとえ何が起きても、つなぐこと、つなぐこと、つなぐこと。

#### 災害用伝言板体験サービス

大規模な災害が発生した際に提供される災害用伝言板だが、10月1日まで毎日、体験サービスを実施しており、メッセージの登録・確認を体験できる。なお、期間終了後でも、毎月1日と15日などにも体験サービスを利用できる。この機会にぜひ一度確認してほしい。

# 災害用伝言板

震度6弱以上の地震など、大きな災害が起きたときに、ケータイやスマートフォンからご自身の安否情報の登録や、ご家族や友人の安否を確認できるサービスです。



## 伝言の登録方法

スマートフォン(spモード)からの登録ができるようになりました。(2011年3月から)

**1**

iモード

スマートフォン  
(spモード)

「MENU」から  
災害用伝言板を選択<sup>※1</sup>

「ドコモマーケット」から  
災害用伝言板を選択<sup>※2</sup>

**2**

登録を選択。  
メッセージは、一つの災害でのサービスを終了するまで保存され、10件まで登録可能です。10件を超えると古いものから順に上書きされます。

**3**

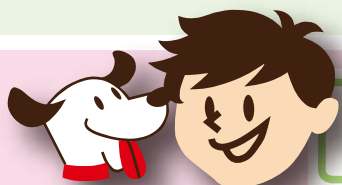
現在の状態をチェックし、登録を選択して登録完了。  
100文字までのコメントも入力可能です。

**4**

「登録お知らせのメール」を送信する場合は、送信先グループをチェックし、送信を選択。  
「あなたからのメール送信を希望した方の一覧はコチラ」をクリックすると、メール希望者の一覧が表示されます。

※1 震度6弱以上の地震など、大きな災害が発生したときに表示されます。  
 ※2 SC-01B、T-01Aをご利用のお客様は、ドコモサイトよりご利用いただけます。  
 BlackBerryをご利用のお客様は、docomo service portalよりご利用いただけます。  
 (別途インストールが必要です)

※3 事前に「登録お知らせメール」を設定している場合にのみ表示されます。  
 ※4 モード別メール配信設定のあるファミリー割引グループメンバーがいる場合にのみ表示されます。  
 ※5 「登録お祝いメール」を受信した場合に表示されます。



## 伝言の確認方法

**1**

iモード

スマートフォン  
(spモード)

「MENU」から  
災害用伝言板を選択<sup>※1</sup>

「ドコモマーケット」から  
災害用伝言板を選択<sup>※2</sup>

**2**

確認を選択。

**3**

安否を確認したい人の携帯電話番号を入力し、検索を選択。

**4**

登録されているメッセージが表示されます。  
ドコモ以外の災害用伝言板に伝言の登録があった場合には、該当の伝言板へのリンクが表示されます。(全社一括検索)

※1 震度6弱以上の地震など、大きな災害が発生したときに表示されます。  
 ※2 SC-01B、T-01Aをご利用のお客様は、ドコモサイトよりご利用いただけます。  
 BlackBerryをご利用のお客様は、docomo service portalよりご利用いただけます。  
 (別途インストールが必要です)

体験サービスへのアクセス

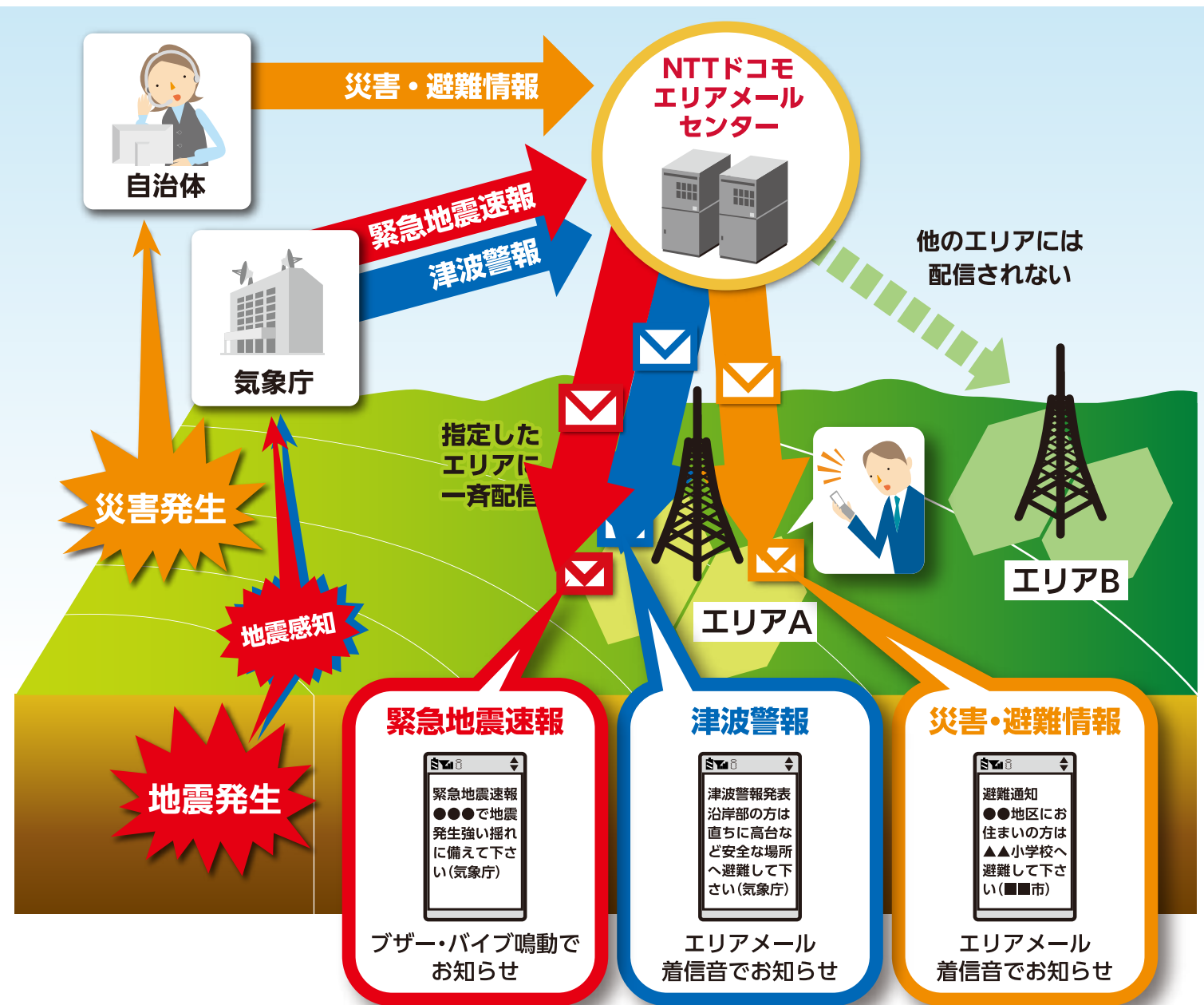
- iモードをご利用のお客様: 「MENU」→「お知らせ」→「災害用伝言板」→「体験サービスのご案内」→「体験サービスへ」
- スマートフォン(spモード)をご利用のお客様: 「ドコモマーケット」→「災害用伝言板」





# 緊急速報 「エリアメール」

- 国・地方公共団体※からの災害・避難情報が、被災のおそれのある市区町村内のケータイに配信されます
  - 気象庁の緊急地震速報が、強い揺れの想定されるエリアに配信されます
  - 気象庁の津波警報が、1m以上の高さの津波が予想され、これにより災害のおそれがあるエリアに配信されます
- ※災害・避難情報の配信は、ドコモへの申込みが必要です

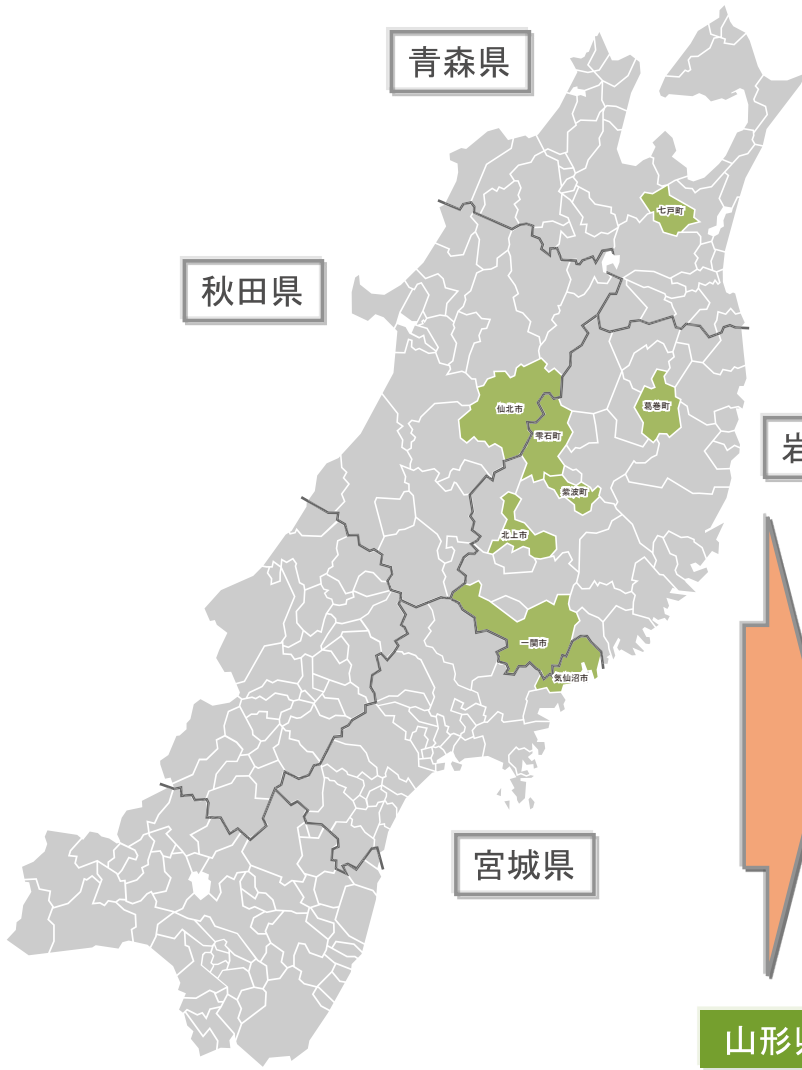


● 対応機種では、申込み不要、月額使用料・通信料は無料で受信できます。

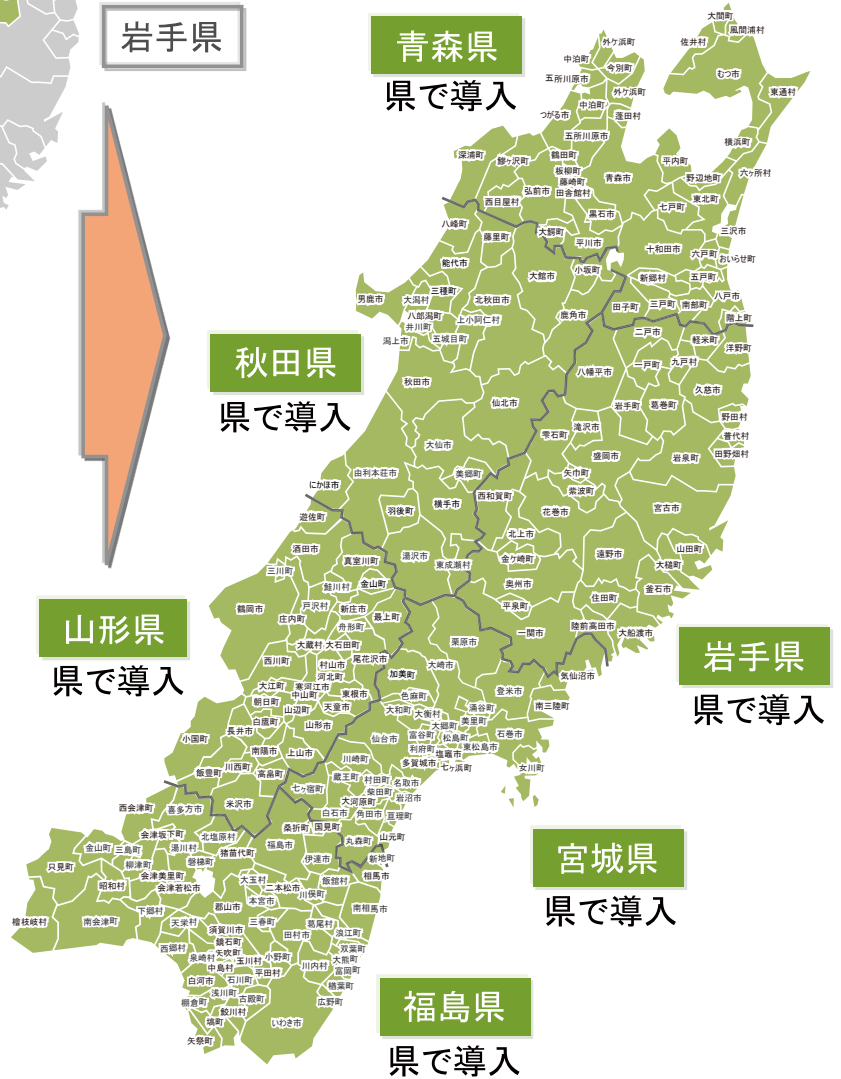
● 着信時には、専用着信音と画面ポップアップ表示で通知されます。

# エリアメール 導入状況

2011年3月11日現在



2015年1月1日現在



4県:8自治体

東北6県全自治体導入